

ペットフードは 飼い主さんの管理も大切!

● 適したペットフードを与えて健康を守ろう

ペットフードを購入した後は、家庭での管理が大切。ペットの健康を考えて、与え方や量の調整はもちろん、ペットフードの品質を保つために保管にも気をつけてほしいな。

主食となるペットフードを大切に

基本は主食用の<総合栄養食>を与えよう

- 犬用・猫用をきちんと守ろう
- 年齢・月齢に合わせたフードを与えよう
- 健康状態に配慮して給与量も加減しよう
- パッケージ表示の給与量、給与方法を参考に、個々の体型や体調をみて量や与え方を決めよう



おやつとの与え方に気をつけよう

「間食」や「おかずタイプ」の主食使用はNG
(おやつ・スナック) (一般食・副食)

- 「間食」(おやつ・スナック)は、栄養が偏らないように1日の必要エネルギーの20%以内に。
- 「おかずタイプ」(一般食・副食)は、総合栄養食と共に与えるフード。その給与方法を守ろう。



! ペットの太りすぎに注意

重い体はペット自身の負担になり、多くの病気の原因になります。太ってきたなと感じたら、ペットフードの量や与え方など、適正かどうか考えてみましょう。



✕ ペットが太ってしまった原因にはこんな例が...

- ✕ 成犬になっても幼犬用フードを与え続けた。
- ✕ 総合栄養食をあまり食べないので、おかずタイプをメインに与えていた。
- ✕ おやつが大好きで、ついついあげ過ぎていた。
- ✕ 「もっと食べたい」というそぶりをするので、おかわりさせていた。
- ✕ 人間の食べ物を分け与えていた。

パッケージに書かれている給与量は、理想体重の維持に必要な食事量の目安です。増えた体重にあわせて食事量も増やしたらもっと太ってしまうので注意。食事量は体型の変化、日頃の運動量、体質などに合わせて調整をしましょう。また、空腹感を抑えるため、一日の食事量を数回に分けて与えたり、同じ量でもカロリーが低いタイプのペットフードを利用してもよいでしょう。

● 食器はいつもキレイに!



ペットフードを与える食器やスプーンなどの衛生面にも気をつけよう。フードの残りカスや水分は、微生物の繁殖場所になってしまうので、使い終わった食器やスプーンは、キレイに洗い、水気をきって乾燥させ、清潔な状態で保管しよう。

! 人間の食品にも注意

ペットは、人間の食べ物を口にしてしまうことがあります。しかし、人間に安全な食品でも、ペットが食べると健康に害を与えるものもあるので注意してください。

避けたい食材

- ✕ タマネギなどのネギ類
- ✕ キシリトール入りガム類
- ✕ チョコレート

この他、よくペットフードの原材料に使われている素材でも、家庭で安易に与えると健康に影響する食品もあります。例えば、割れた破片が内蔵を傷つける危険がある「鶏の骨」。「魚介類」「ナッツ類」「卵の白身」などは、生で与えた場合、消化が悪く下痢や嘔吐の原因になるものもあります。きちんとした知識がない場合は、人間用の食材をむやみに与えるのではなく、犬や猫に適したペットフードを与える方が安心です。